

令和5年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. SDGsの推進について	4
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
IV. 令和5年度の地域連携事業実績一覧	5

第2章 令和5年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	8
1. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
2. 地域交流サロンにおける公開講座	
3. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
4. 土曜学び合いルーム	
II. 水巻町との包括的連携事業	18
1. 防災教室事業	
III. 北九州市との連携事業	20
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
2. 北九州市の学校給食のためのアンケート調査	
3. 北九州市の備蓄食品を使用した災害食レシピの開発	
IV. 折尾二三会との包括的連携事業	25
1. 九女わくわくパークの企画運営	
V. 味の素株式会社との包括的連携事業	27
1. グルタミン酸濃度測定簡易キットを用いた食品中のグルタミン酸濃度の研究	
VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	29
1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業	
VII. 株式会社セルフとの包括的連携事業	31
1. 味噌漬け製品の開発	
VIII. ギラヴァンツ北九州との連携事業	33
IX. 宗像市との連携事業	35
X. インターンシップ推進事業	37
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
XI. 学生ボランティア事業	41
XII. その他の地域連携諸事業	41
1. 北九州市民カレッジにおける公開講座	

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和5年度学外実習・介護等体験の実績	43
-----------------------	----

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	44
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	44
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	45
IV. 協定先一覧	46
V. 講師派遣実績一覧	46
VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧	48

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

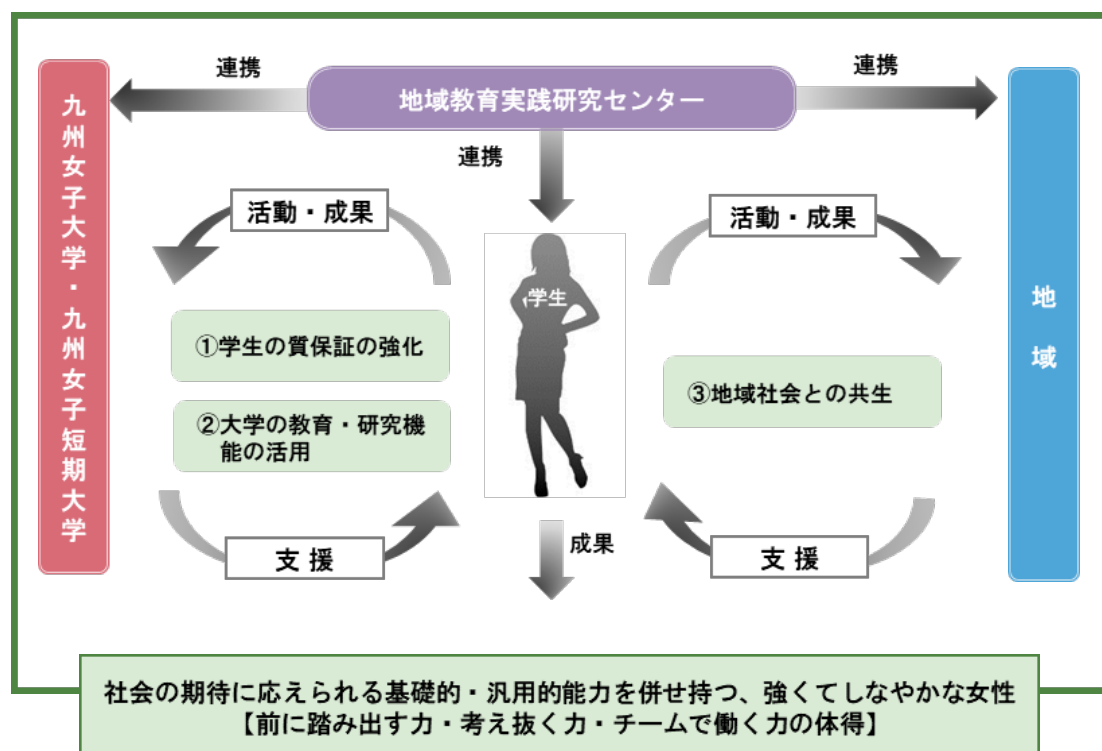
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



Ⅱ. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

2. 業務内容

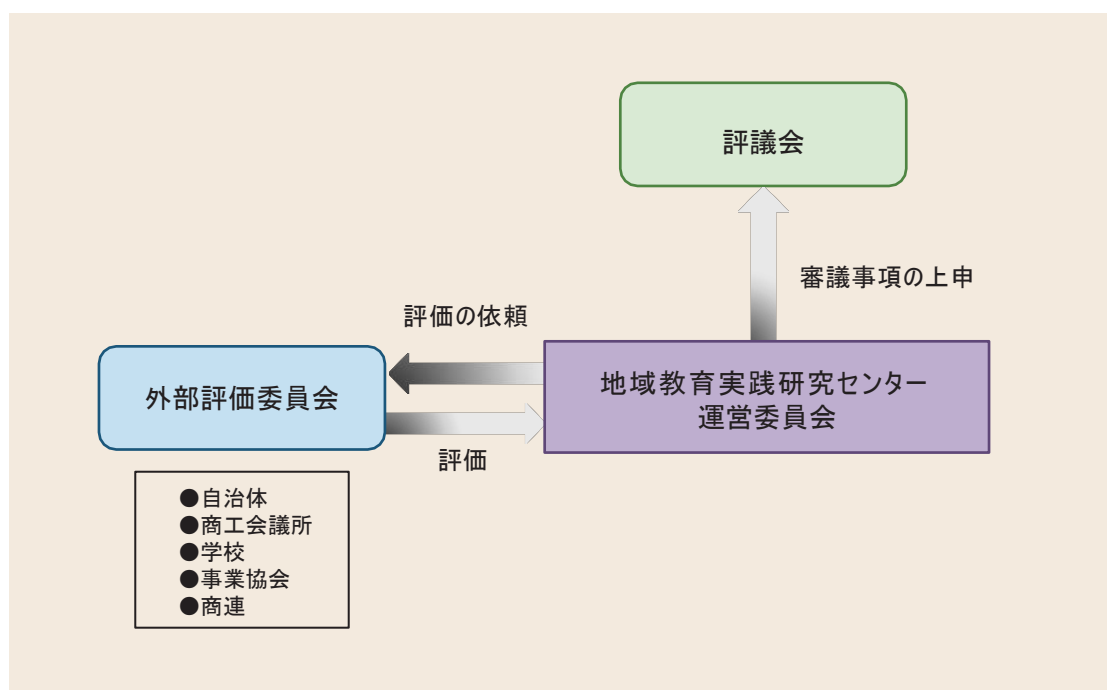
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を設置している（P29参照）。



第1章 大学における地域連携について

Ⅲ. SDGsの推進について

1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動等の様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等に選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。



2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。自治体および企業等との連携事業を通じて、教育、地域課題の解決、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



IV. 令和5年度の地域連携事業実績一覧

	事業	概要	SDGs
I	芦屋町との包括的連携事業	1. スーパーキャラバン隊による模擬保育 芦屋町の保育所および幼稚園において、子ども健康学科の学生が実践型教育、および保育支援として模擬保育を実施している。令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を中止し、教育教材作成を行った。	 
		2. 地域交流サロンにおける公開講座 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、地域交流サロンにおいて本学教員による公開講座を実施した。 ■担当教員：巴美樹	
		3. 芦屋町祖父母学級における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①芦屋東公民館 ②山鹿公民館 ③芦屋町中央公民館	
		4. 土曜学び合いルーム 児童・生徒の自学・自習力の向上を図り、学校教育を補充することを目的として、芦屋町教育委員会主催で行われる事業である。芦屋町内の公民館にて年間15回実施しており、令和5年度はのべ633名の児童が参加した。 ■担当教員：蒲原路明	
II	水巻町との包括的連携事業	1. 防災教室事業 町民のさらなる防災意識の向上を図るため、人間生活学科のカリキュラムにおいて水巻町役場が地区や小中学校に対して行っている防災教室に同行し、消火器使用上の注意の説明と実践を行った。	   
III	北九州市との連携事業	1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座『「遊び」を「学びほぐす」—探求する子どもたち、私たちにに向けて—』を実施した。 ■担当教員：谷口幹也	
IV	折尾二三会との包括的連携事業	1. 九女わくわくパークの企画運営 人間生活学科3年生の「地域生活学演習Ⅱ」および、人間発達学科人間基礎学専攻3年生の「卒業研究演習Ⅱ」において、学科を超えた合同授業を行い、地元の子どもたちを対象とした「九女わくわくパーク」を企画のうえ開催した。 ●参加者数：164名 (小学校低学年児童73名、同伴者91名。同伴者には未就学児及び高学年児童を含む。)	

第1章 大学における地域連携について

	事業	概要	
V	味の素株式会社との包括的連携事業	1. グルタミン酸濃度測定キットを持ち田食品中のグルタミン酸濃度の研究 うま味を活かした美味しい給食の提供を目指すことを目的とし、味の素株式会社が開発したグルタミン酸測定用キットを用いて、地域の福祉施設および病院給食のグルタミン酸の測定を行った。	 
VI	株式会社えん・コミュニケーションとの包括的連携事業	1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業 栄養学科の学生が、株式会社えん・コミュニケーションズが主力商品としている鯖や明太子を活用し、食品ロスを目的に新商品の試作品を開発した。	
VII	株式会社セルブとの包括的連携事業	1. 味噌漬け製品の開発 北九州を代表する企業である株式会社セルブと本学栄養学科が提携し、福岡県産のタケノコや海産物、若松産のトマトなど、地域の特産品を使用した味噌漬け製品の開発に取り組んだ。	 
VIII	ギラヴァンツ北九州との連携事業	1. ギラヴァンツ北九州との連携事業 本学園および「ギラヴァンツ北九州」、豊前市の取り組みとして、有害鳥獣であるイノシシやシカを使用したジビエカレーのレシピを考案した。 また、北九州市および本学園、ギラヴァンツ北九州主催の「SDGsサッカークリニック(小学生の部)」「SDGsサッカークリニック(中学生の部)」を開催し、栄養学科教員による栄養セミナーの実施や、SDGsの取り組みの一つとして普段捨てている人参や大根の皮を使用したレシピの考案・試食会を行った。 さらに子ども健康学科専攻科の学生が「ギラヴァンツ北九州」のホームゲームで、サポーターが子ども連れでもゆっくり観戦できるための空間を提供するため、託児所を開設している。	 
IX	宗像市との連携事業	1. 宗像市とレシピ開発や新パッケージ作成の取り組み 宗像市との連携事業において、椿油を使用したレシピの開発および地島の特産品であるわかめの新パッケージの作成を行った。	

	事業	概要
X	インターンシップ推進事業	1. 文系インターンシップ 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】延べ19人／【春季】延べ14人 3. 九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】1人／【春季】0人 4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】0人 5. 北九州市インターンシップ 職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。 ●派遣学生数：2人
XI	学生ボランティア事業	本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等と称して、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。
XII	その他の地域連携諸事業	1. 「北九州市民カレッジ」における公開講座 「北九州市民カレッジ」において、高等教育提携コース（本学会場）で人間科学部教員による全5回の講座を開講した。また「デジタル化の抱える課題と私たちの未来」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座に本学教員を派遣した。 ■担当教員：吉村圭、古木誠彦、山下高之、方如偉、樫澤葉子、関洋輔 2. 「折尾まつり」への参画 2020年以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催が見送られていた「第34回 折尾まつり」が4年ぶりに開催された。 「折尾まつり」は例年6月に開催される折尾地区最大のイベントで、1987年に第1回が始まった地域の方々にとってなじみの深い伝統あるお祭りである。 今回の「折尾まつり」はJR折尾駅北側の駅前広場において、新駅舎の完成記念イベント「おかえり折尾駅」との同時開催で6月3日（土）、4日（日）の二日間にわたって行われ、久しぶりの開催でもあったことから会場には多くの方が詰めかけ大盛況となった。 この祭りを主催する「折尾まつり実行委員会」は、地域住民をはじめ官公庁や企業の方々に組織されているが、以前から本学の職員や学友会に所属する学生も参画し、企画段階から当日の運営に至るまで深く関わっている。今回もキャリア支援課の職員1名と学生2名が半年ほど前から定例の企画会議に出席し、まつり本番では10名の学生がステージイベントの司会や出場者の誘導などを担当した。

第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		芦屋町との包括的連携事業 スーパーキャラバン隊による模擬保育
九州女子大学	担当者	貞方 聖恵
	所 属	子ども健康学科
連携機関	機関名	芦屋町
	責任者	
事業実施日・回数		2023 年 DVD 制作、2024 年 2 月 DVD 配布
実施場所		九州女子短期大学
事業対象者 参加人数		芦屋町の保育所および幼稚園：6 園 (DVD 配布の為、参加人数なし)
経 費		地域教育実践研究センター支出
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 スーパーキャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する学生主体の活動である。その活動を通して、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」など、総合的な「人間力」の育成を目的としている。令和4年度より保育教材 DVD の製作に取り組んできた。 2. 実績 令和5年度は、保育教材 DVD を完成させ、芦屋町の保育所および幼稚園 6 園に配布することができた。 DVD の内容は、「手遊び」「歌・手話」「パネルシアター」「保健指導」など、これまで授業や実習等で学んだことを中心に、学生が主体となって計画・準備を行った。また、練習では、子どもが楽しめる内容にするという共通の目的のもと、話し方やスピード、目線、表情など、細かい部分にまで意見を出し合うことによって、学生の学び合いの場となった。 3. 効果 子どもたちに向けた実践を行うことによって、学生の意欲向上、実践力向上、仲間との一体感、コミュニケーション力向上など、さまざまな効果が見られた。子どもたちも、DVD を通して、一緒に歌や手遊びを行ったり、遊びに取り入れたりなど楽しんでくれることを期待している。
学生・参加者の声		・人前に立つと緊張してしまうタイプだったが、スーパーキャラバン隊の活動を通して自信がつき、子どもたちの前で楽しく活動ができるようになった。 ・子どもたちに向けてパネルシアターの撮影をした。絵人形をどのように動かそうか、途中で歌を入れた方が子どもたちが一緒に参加できるのではないだろうか等、仲間と意見を出し合うことができ、充実した活動となった。
今後の改善内容 及び展開		本年度は、DVD 製作・配布による活動展開であったが、次年度は、保育現場に出向き、模擬保育を行ったり、子どもたちと直接触れ合ったりするなど、実践型教育を実施したい。



←スーパーキャラバン隊が作成したDVDです。チャプター形式にすることで、保育の場面に合わせて見られるように工夫しました。



↑DVDの内容は、学生が主体となって考えました。「子どもたちは何に興味があるかな。」「どんな話し方だったら伝わるだろうか。」など、意見を出し合いながら取り組みました。



↑撮影風景です。

目線や動作・話すスピードなど、細かい部分まで確認し合い、練習しました。また、納得のいく動画が撮れるまで、多くのテイクを重ねました。学生たちの真剣な表情、とても素敵でした。子どもたちが喜んでくれるとさらに嬉しいです。



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和5（2023）年度
事業名		芦屋町 地域交流サロンにおける公開講座
九州女子大学	担当者	巴 美樹
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	芦屋町
	責任者	
事業実施日・回数		5 回
実施場所		
事業対象者 参加人数		芦屋町住民 20 名～30 名
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 高齢者に学び直しの機会を提供するため、「若く美しく健康に老いる食生活」をテーマに芦屋町の地域交流サロンにおいて、公開講座を 1 月に 1 講座、2 月に 2 講座、3 月に 2 講座の計 5 講座実施した。 2. 実績 ① 1 月 28 日芦屋町地域交流サロン公開講座(花見坂) ② 2 月 14 日芦屋町地域交流サロン公開講座(大城) ③ 2 月 21 日芦屋町地域交流サロン公開講座(浜崎) ④ 3 月 4 日芦屋町地域交流サロン公開講座(第 2 緑ヶ丘) ⑤ 3 月 5 日芦屋町地域交流サロン公開講座(柏原) 3. 効果 平均年齢は約 75 歳であったが、非常に積極的で質問も多く充実感があった。今年は骨密度や握力の測定も取り入れたことで、より講義の内容への理解が深まった。芦屋町は行政との「サロン」の連携が上手くいっており、健康寿命の延伸に向けた素晴らしい取り組みであると考えている。
学生・参加者の声		参加者からは非常に分かりやすく、来年度も是非継続してほしいと多数の声掛けがあり、大好評であった。
今後の改善内容 及び展開		今回、骨密度の測定や握力測定を取り入れたことで参加者がより積極的に健康管理に興味を持っている様子であったことから、可能であれば今後は体組成の測定なども追加できればと考えている。

芦屋町地域交流サロン当日の様子



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度	令和5（2023）年度	
事業名	九州女子大学との包括的地域連携協定に基づく講座 「芦屋町祖父母学級における公開講座」	
九州女子大学	担当者	古木誠彦
	所 属	九州女子大学 心理・文化学科
連携機関	機関名	芦屋町中央公民館長
	責任者	井上弘行 館長
事業実施日・回数	3月5日(火)・3月6日(水)・3月7日(木) 各 13:30～15:30	
実施場所	芦屋東公民館・山鹿公民館・芦屋中央公民館	
事業対象者 参加人数	芦屋東公民館学習室(8人)・山鹿公民館学習室(9人) 中央公民館 31 会議室(6人) 計 23名	
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果	1. 事業プランの目的・内容等 3.公民館における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施し、その目的の一助とする。 2. 実績 芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、3ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を、5年間継続して実施している。 3. 効果 ◇前半は西周晩期に毛公が作成した“毛公鼎”の499文字におよぶ金文の一部の解説。金文を手、盾、青銅器、肉、鼻、衣、目、魂などを表すパーツに分解し、漢字の意味を推測していく過程を行った。 ◇後半は、講義で取り上げた金文の中から自由に文字を選び、参加者自身が書く実技講座を行った。現在の書道とは違い、「とめ、はね、はらい」などがなく、字を書くというよりは絵を描く感覚である。参加者は、当初戸惑い気味であったが、参加者の作品を添削指導するに連れて満足できる作品を書けるようになった。最後は「自分で文字を作ってみましょう」という課題。思い思いに文字を考えていて、充実した講座となった。	
参加者の声	〇とても分かりやすく、おもしろかった。字っておもしろいなと思った。絵を描くように書いて楽しくなる。〇台湾旅行を計画してみようと思った。(故宮博物院) 〇知らない人に字のおもしろさを教えてあげたい。 〇「花まる」をもらったからうれしい。 〇自由な発想が楽しかった。 〇老後楽しく暮らすようにいかしたい。〇先生の話しがとても面白く心地よい講座でまた受講したいと思いました。〇この講座を続けてほしいです。〇このような講座は、なかなか受けられないと思い受講することにしました。	
今後の改善内容 及び展開	ここ数年で、講座内で新たな試みを行っている。受講生の皆さんの意欲が凄く、段々と高いレベルになっているが、それを感じさせないような工夫をこれからも行っていきたい。 とにかく、本講座は楽しく行っていきたい。本講座の継続者が増えてくれることを切に望んでいる。	

芦屋町 祖父母学級における公開講座 当日の様子



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		芦屋町「土曜学び合いルーム」
九州女子大学	担当者	蒲原 路明
	所 属	人間科学部 児童・幼児教育学科
連携機関	機関名	芦屋町教育委員会（生涯学習課所管）
	責任者	芦屋町中央公民館 館長 井上 宏行
事業実施日・回数		年間 15 回（5/27、6/10、7/1、7/22、8/5、8/19、9/2、9/30、10/14、11/25、12/2、11/30、12/23、1/13、1/27、2/17）
実施場所		芦屋町中央公民館、芦屋東公民館、山鹿公民館
事業対象者 参加人数		芦屋小学校児童、芦屋東小学校児童、山鹿小学校児童
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 芦屋町「土曜学び合いルーム」は、児童・生徒の自学・自習力の向上を図り、学校教育を補充することを目的として、芦屋町教育委員会主催（生涯学習課所管）で行われる事業である。町内 3 小学校区単位で、3 か所の公民館を会場に、年間 15 回実施している。本事業は、令和 5 年度で 22 年目を迎える。九州女子大学人間発達学科では、学生ボランティア（グリーンティーチャー）として平成 23 年度より事業に参加し、平成 28 年度からは、包括的連携事業として実施している。新型コロナウイルス感染症のため、令和 2 年度から 3 年間は中止していたが、本年度より再開している。 2. 実績 ※ 別紙資料 1 毎回、九州共立大学のスマイルステーションに、8 時 25 分までに集合し、送迎のマイクロバスで各公民館に向かう。そして、9 時から 11 時まで、参加児童の自主学習の支援を行う。帰りもスマイルステーションまでマイクロバスで送っていただく。 本年度の派遣学生と参加児童は、以下のとおりである。 ○ 学生ボランティア（グリーン・ティーチャー）派遣 15 回の開催で、山鹿公民館 76 名、中央公民館 75 名、芦屋東公民館 87 名、のべ 229 名の学生を派遣し、学習支援を行うことができた。 ○ 参加児童 参加した児童数は、山鹿公民館 282 名、中央公民館 122 名、芦屋東公民館 229 名、のべ 633 名であった。 3. 効果 第 1 回の開講式から 15 回実施し、多くの児童の学習支援を行うことができた。参加した学生は、児童が持参した教材で自主学習をする際の支援として、学習の仕方や問題の解き方などを指導することができた。再開した 1 年目であるが、多くの児童が参加し、自主学習を行うことができた。 小学校の児童と接する機会の少ない学生は、小学生と触れ合い実際に勉強を教えたりすることで、教職への意欲を高めることができた。また、子どもの反応に合わせた対応の仕方を学ぶことができたことで、参加してよかったと実感することができた。そして、今後に活かしたいという思いが強くなった。

学生・参加者の声	※ 別紙資料 2
今後の改善内容 及び展開	○ 1 回に、各公民館 7 名の学生ボランティアの派遣を依頼されている。夏休み期間の 8 月や大学の試験前、また、教育実習期間など、学生の希望者を募集することが難しい時期があった。募集の方法や連絡の方法を工夫する必要がある。 ○ 教職に就こうと考えている学生にとって、児童と関わる機会が増え、実態を把握できることは意義深いことであるとする。今後も、芦屋町との連携を深め継続していくことが望ましいとする。

【活動した時の写真等の記録を添付してください。】

<別紙資料 1>

R5年度 芦屋町「土曜学び合いルーム」実績																
開催回数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
学生ボランティア 派遣実績	5月 27日	6月 10日	7月 1日	7月 22日	8月 5日	8月 19日	9月 2日	9月 30日	10月 14日	11月 25日	12月 2日	12月 23日	1月 13日	1月 27日	2月 17日	
山鹿公民館	6	7	6	7	7	3	7	7	4	中止	3	6	3	5	5	76
中央公民館	7	7	4	7	7	3	6	6	3	5	3	3	5	7	2	75
芦屋東公民館	7	7	4	7	7	3	6	7	4	11	5	4	5	6	4	87
全体集計	20	21	14	21	21	0	19	20	11	16	11	13	13	18	11	229
参加児童数																
山鹿公民館	282															
中央公民館	122															
芦屋東公民館	229															
全体集計	633															

<別紙資料 2>

令和5年度 芦屋町「土曜学び合いルーム」参加学生ボランティアアンケート

Q: 学び合いルームについての感想を聞かせてください。

・子どもと関わるのが楽しかった
・小学生と触れ合い実際に勉強を教えたりすることで今後実習や授業等で役に立つことを学ぶことが出来ました。
・子供達のわからないところと一緒に考えたり、教えたりすることがとても楽しかったです。
・子供達が黙々と勉強を頑張っている姿が印象的でした。
・年齢や経験など様々な方々が学び合いルームのスタッフとして参加していたため、多角的な視点から子どもたちと関わり、教えていた点に魅力を感じました。
・子どもたちがいきいきとしていて教えるのもやりがいがあった。
・少人数で児童一人一人について教えることができるので、その子が何で迷っているのか、何を教えたらいいいのかを考えることができ、いい経験となった。
・勉強したくない子どもへの声掛けをどうすれば良いのかを考えて何度も実践することが出来て勉強になった。

・特定の子どもではなく、いろいろな子ども達と関わることができ、一人ひとりに合った寄り添い方が大切だということを改めて感じる事ができた。

Q:学び合いルームに参加して良かったことや役立ったことがあれば聞かせてください。

・学年の違う子どもたちそれぞれに合う指導の方法を学ぶことが出来た。

・「先生」という存在がなく、自分たち学生が主体となり教えることができました。多種多様な子ども達がいることも分かりました。

・役立ったことは、1回目教えた時に理解出来ていなかったら別の角度からまた教えてそれを理解できるまでやることの難しさを学びました。その中でコツなどを掴めたのでとても良かったです。

・「また来てね!」と言われたり、「わかった!そーいうことねー!」と言われたりしたことがとても嬉しかったです。教える大変さや楽しさを知ることができました。子供たちと学ぶ体験ができ、教員になるための力になったと思います。

・自分の苦手分野が再確認できる。

・個別の指導をするという機会はあまりないので、個人のレベルや理解度に合わせてどのように指導しようかと考えることができて良かったです。

・同じ課題でも子どもによって難しいと感じる問題は異なるとともに、同じ問題について難しさを感じる子どもの場合でも理解しやすい工夫や支援は子どもによって違うため、子どもに応じた支援の方法についてとても勉強になりました。また、発達段階に応じた声掛けや支援の仕方について、他のスタッフの方の子どもの関わりから参考にしたいと思いました。

・子どもとの関わり方や教え方が分かったのでよかった。

・子どもたちがどこでつまづくのか分かった。

・学校以外で子供たちがどんな生活をしているのか、何を学び学んでいるのかを知ることができた。

・なかなか集中できなかつたり、やる気が起きなかつたりする子どもたちへの声のかけ方や、分からない点をいかに分かりやすく教えられるかなど声のかけ方コツを学ぶことができたのはとても良かった。

・学び合いルームで子ども達が理解してくれた教え方を小学校でのボランティアで活用できた。

・教え方や言葉の選び方など、学び合いルームでも活動を通して多くのことを学んだ。また、子どもの反応に合わせた対応の仕方を学ぶことができたので、参加してよかった。ここでの経験や学びを今後活かしていきたい。

土曜学び合いルームの様子



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		水巻町防災講座
九州女子大学	担当者	富山禎信・秋丸風花
	所 属	生活デザイン学科（人間生活学科）・キャリア支援課（地域教育実践センター）
連携機関	機関名	水巻町役場
	責任者	水巻町役場総務課
事業実施日・回数		2024年2月10日（土）
実施場所		UR 梅ノ木団地
事業対象者 参加人数		梅ノ木団地住民 約20名 人間生活学科3年生2名
経 費		なし
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 防災講座事業は、水巻町民の防災リスクの回避と防災意識の向上を目的として実施している。本事業は、防災に係る事業を水巻町と本学との包括連携協定にもとづいた実施である。 今回は、防災体制の整備と防災意識のさらなる向上を図るため、水巻町の中でも人口密度の高いUR 梅ノ木団地東区の住民を対象にして、学生が防災講座に同行して消火器の使用上の「注意点の説明」と「実践」を行った。 火災時の対応で最も重要なのが、発生から2分以内の初期消火とされる。消防隊が現場に到着するまで、平均でおよそ7分程度かかるといわれる。消防隊が現場に到着するまで放置すると全焼の恐れもある。 したがって初期消火活動の中で、もっとも確実な消火方法である消火器の使用が重要となる。しかし、いざというときに消火器を使えなければ意味をなさない。そこで梅ノ木団地住民に消火器の種類と使い方を知ってもらうため、防災講座の中で初期消火の方法を住民に提示することとなった。 2. 実績 防災講座の中で学生が消火器の使用上の「注意点説明」と「使用の実践」（的に向かって疑似消火剤を噴霧する訓練）を行った。 3. 効果 大勢の学生の前で発表する経験は幾ばくかある。しかし、市井の人々の前で話をしたり、レクチャーする経験は学生にはなかった。当該学生たちは、消火器の使用方法和実践を事前に学習していたとはいえ、未経験で不慣れな状況下であり、下記の学生の声にもあるように緊張していた。しかし、学生自身は「説明と噴霧がうまくできた」と自己評価を下しており、不慣れな状況の中でも成功体験を積むことができたと考えられる。また、水巻町の防災体制の整備と住民の防災意識の向上に、多少なりとも資することができた。
学生・参加者の声		事業実施後に学生の内省を企図してカンファレンスを実施した際に、次のような発言があった。「大勢の前で消火器の使用方法を説明をする機会をいただけて、大変有意義だった」、「消火器の使い方を説明するのに緊張した」、「消火器の説明と噴霧は、うまくできたと思う」とのことであった。
今後の改善内容 及び展開		今回、防災講座のアシスタントとして学生が活動した。上記のような効果はあったものの、主体的に防災の企画したり、考えた企画を学生主体で運営するまでには至っていない。次なる展開としては、学生主体の企画・運営を水巻町と協働で実施することにあると考えられる。

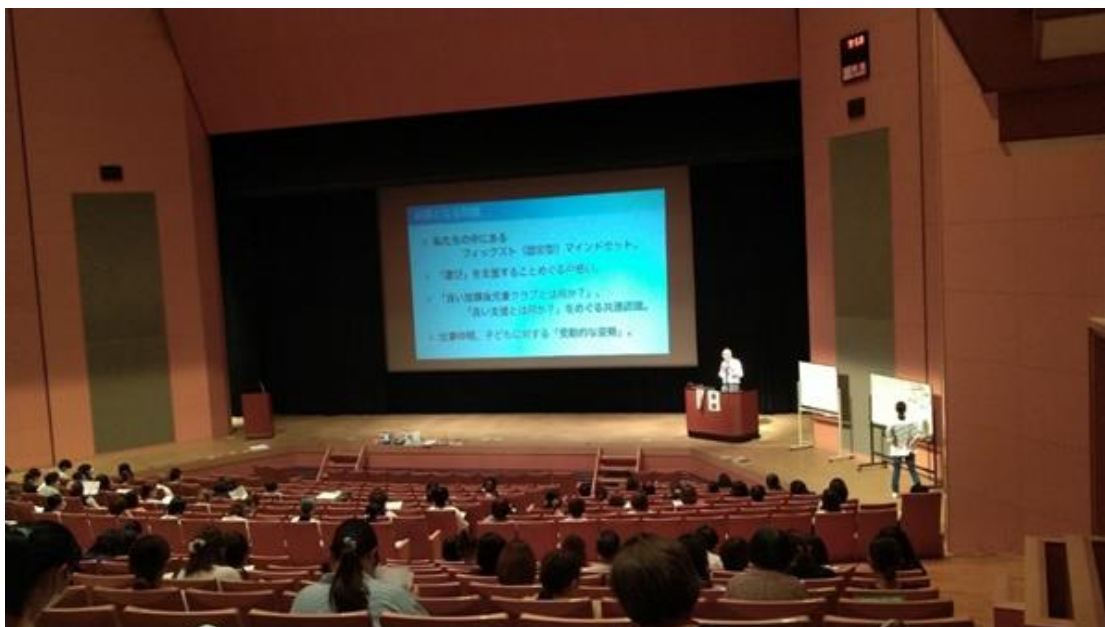
水巻町 防災講座 当日の様子



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和5（2023）年度
事業名		放課後児童クラブ指導員を対象とした公開講座
九州女子大学	担当者	谷口幹也
	所 属	人間科学部 児童・幼児教育学科
連携機関	機関名	北九州市
	責任者	子ども家庭局
事業実施日・回数		令和5年7月12日(水) 9:30~12:00
実施場所		ウェルとばた 大ホール（北九州市戸畑区汐井町1-6）
事業対象者 参加人数		事業対象者：放課後児童クラブ指導員〇〇〇名 参加人数： 人間科学部 学生 4 名
経 費		なし
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 【目的】 放課後児童クラブにおいて児童自身が主体的に活動する方法を探究し、現場を改善し活性化するための方法と知恵を来場者全員で学び合う。 【内容】 『「遊び」を「学びほぐす」—探求する子どもたち、私たちに向けて—』をテーマに講話を行い、A4コピー用紙を使用したワークショップ「ペーパーチャレンジ」を行った。この活動は、グループでコピー用紙のみでどれだけ高いタワーを作ることができるかというものであり、参加者それぞれが内に秘めた挑戦する力を会場全体で共有することを目的としたものである。グループワークを通して、児童が「主体的に行動できる活動とは何か」を探究し、現場ですぐに実施し改善できる事項、児童や職務に対する思いを共有する時間を創出した。 2. 実績 参加者の学びに対する意識の高さ、学ぼうとする強い意識が会場にみなぎり、会場全体が一体となる高揚感を感じ取ることができた。 本講座に参加した方々からは、今までの研修とは全く違った研修内容であり、楽しいことの中に学びがあふれていて、大人も子どもも関係なく楽しむことが大切だといった感想をいただいた。 3. 効果 放課後児童クラブで日々奮闘されている職員が、安全安心の視点のみではなく、常に児童が元気に学び過ごせる場所を作るために必要となる「子ども観」、「学習観」の再確認を行うことができた。
学生・参加者の声		【参加者より】 童心に戻ること、児童にとって時間を忘れて取り組むことの大切さ、ワクワクすることの大切さ、等を確認できたとの感想を会場で頂いた。 【学生より】 放課後児童クラブで働く職員の皆さんの真剣さ、誠実に直接触れて大きな刺激をいただいたとの感想があった。また、社会で必要とされる仕事に就くことに関して強い関心をいただくことができたとのコメントがあった。
今後の改善内容 及び展開		今後の改善点として放課後児童クラブで働く方々の課題、問題意識をより把握することが挙げられる。 そして、今後より参加者にとって、元気が得られる、職場や仕事の質を向上、改善するための知見を提供する「対話型」「参加型」の講座の内容方法を探究していきたい。

放課後児童クラブ指導員を対象とした公開講座



第2章 令和5年度の地域連携事業

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		北九州市の学校給食改善のためのアンケート調査
九州女子大学	担当者	巴 美樹
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	北九州市
	責任者	北九州市教育委員会
事業実施日・回数		2023 年 7 月～2024 年 2 月
実施場所		アンケート調査: 北九州市の小学校、中学校 データ解析: 九州女子大学
事業対象者 参加人数		北九州市の小学生・中学生約 3000 人
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 北九州市教育委員会と九州女子大学家政学部栄養学科は学校給食の残食量が多いことから、「美味しい給食」を提供することを目的に北九州市の学校給食改善のためのアンケート調査を行った。約 3000 人の小学生、中学生のアンケートを解析することで、新たな献立の導入の必要性など今後の学校給食の課題が明らかとなった。 2. 実績 ①2023 年 7 月 7 日(金) 北九州市学校給食アンケートに関する打ち合わせ ②2023 年 8 月 アンケート調査、集計、解析 ③2024 年 2 月 16 日(金) 報告書の送付 3. 効果 給食の改善には、材料費や委託会社の契約等、予算が関わってくることから、すぐに改善することは難しいが、学校給食の満足度を向上させ、残食を減らすためには、調理方法の見直しや味付け、提供量等、早急に検討が必要であることが明確となり報告することができた。
学生・参加者の声		実際の学校給食を食べている小学生、中学生の実態を把握することができ、今後のレシピ開発に生かしていきたい。約 3000 名のデータを解析することは貴重な経験であり、学生自身も目的に合ったデータ処理を行う勉強になっていた。
今後の改善内容 及び展開		今後は問題点がより明確になるようにアンケート調査項目の修正を行う。 また、今回の結果を踏まえた学校給食用の新メニューの開発を検討していく。

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		北九州市の備蓄食品を使用した災害食レシピの開発
九州女子大学	担当者	山本 亜衣
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	北九州市
	責任者	
事業実施日・回数		3 回
実施場所		香月スポーツセンター、西日本総合展示場、黒崎ひびしんホール
事業対象者 参加人数		北九州市 100 名～200 名
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 地域連携の取り組みの一環として九州女子大学栄養学科は北九州市の備蓄食品を使用し、日常生活に災害食を取り入れる「ローリングストック法」を広げるためのレシピ開発を行っている。災害が長期化するにつれ、高血圧や低栄養状態など避難生活での栄養上の問題が生じてくる。また、北九州市の備蓄食品の問題点として、おいしさや食感、栄養面では炭水化物に偏っていることが挙げられる。そこで、栄養学科学生はカセットコンロ 1 つで簡単においしくアレンジし、不足する栄養素を乾燥野菜、スキムミルク、ツナ缶などで補った災害食レシピを開発し、その発表、展示および試食提供、レシピの配布を下記の通り 3 回行い、北九州市の備蓄食品普及啓発へ貢献した。 2. 実績 ①2023 年 11 月 26 日(日) 香月スポーツセンター 「八幡西区防災訓練」 ②2023 年 12 月 17 日(日) 西日本総合展示場「北九州市防災フェスタ」 ③2024 年 1 月 27 日(日) 黒崎ひびしんホール「八幡西区防災つどい」 3. 効果 北九州市長や八幡西消防署署長より感謝と今後の活躍への激励が述べられ、北九州市での備蓄食品普及への貢献とともに九州女子大学のイメージアップに繋り、知名度の向上に寄与した。
学生・参加者の声		北九州市長をはじめ、子どもから高齢者まで多くの方に試食いただき、「毎日でも食べたい」「アイディアがすごい」と大好評であった。また、学生は「北九州市長がブースにみえて、声を掛けて頂き嬉しかったです。」「多くの方々に日頃から災害食を備蓄することの大切さやポイントを伝えることが出来ました」など、今回の活動を通してやりがいや充実感を得た様子であった。
今後の改善内容 及び展開		今後は高齢者や幼児、アレルギー対応など配慮が必要な対象者に応じた災害食レシピも検討していきたい。

第2章 令和5年度の地域連携事業

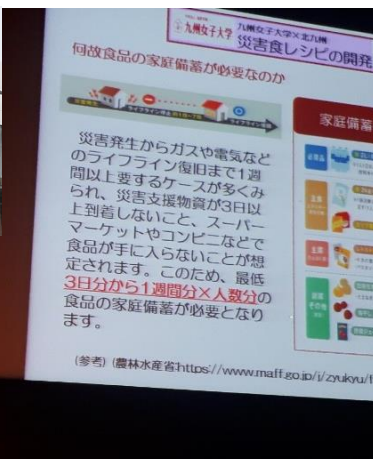
香月スポーツセンター 「八幡西区防災訓練」



西日本総合展示場「北九州市防災フェスタ」



黒崎ひびしんホール「八幡西区防災つどい」



年 度		令和 5（2023）年度
事業名		九女わくわくパーク
九州女子大学	担当者	富山禎信・中島久代・大島まな
	所 属	生活デザイン学科・人間発達学専攻
連携機関	機関名	折尾二三会
	責任者	筒井 武男 氏
事業実施日・回数		2023年11月21日（日）
実施場所		九州女子大学弘明館1階
事業対象者 参加人数		事業対象者（参加者164名 内訳：児童73名、同伴者91名） 事業運営学生（生活デザイン学科21名、人間発達学科10名）
経 費		特別
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 学生主体の子どもの居場所づくり（体験活動）事業は、組織や学科を越えた連携を模索しながら協働して、近隣の小学生（低学年）を対象に体験活動を提供することを目的としている。運営は自主参加で行われた。計11回にわたってチームビルディング、デマ・催事の決定、チラシ配布、催事準備、リハーサル、当該事業実施、振り返り（内省）を実施した。 今回は「あそぶ・まなぶ・つくる！自然王国」をテーマとしてブースの催事を企画・運営した。生活デザイン学科の学生は「スタンプラリー」「ジェルキャンドルづくり」「魚釣り」「魚探し」「シーグラスアート」「輪投げ」を実施した。児童の学生は「しおりづくり」「プラネタリウム」を企画・運営した。 2. 実績 近隣の小学校に1000枚のチラシを配布した。事前に55組の予約があり、164名（小学校低学年児童73名、同伴者91名。同伴者には未就学児および小学校高学年児童を含む）が参加した。 3. 効果 本プログラム事前事後の学生のメンタルヘルス反応の変化を質問紙調査によって効果測定を実施した。調査には橋本・徳永（1999）のメンタルヘルス・パターン診断尺度を使用した。 事業の実施効果として次があげられる。学生が主体的で自発的な活動の下に事前準備で睡眠時間を削るほど労力と時間を投入している。つまり、責任感を感じており、それとともに事後データではやりがいや達成感を味わえている。また、一方で事業当日は児童や保護者に対する対応にとまどいを感じており、講義や演習では経験できない接客対応の実務を現場体験し、内省させる効果があった。 『九州女子大学学術情報センター研究紀要 Vo.7』pp.1-10 参照
学生・参加者の声		参加者（小学校低学年児童）は、ゲームを嬉々として楽しむ姿や、集中して黙々と作品を製作する姿が見られた。児童からは「また来たい」との声が多く聞かれた。学生は、企画準備や児童・保護者への対応に疲れたものの、大いにやりがいや達成感を感じたとのアンケート結果が多かった。
今後の改善内容 及び展開		学生が児童や保護者との対応に苦慮したり、時間を工面しながらも事前準備に多くの時間を費やした経験は、参加した学生にとっては人生に活かせる貴重な体験であった。このような経験から、学生を「褒める」だけでなく、いかに「鍛える」ことで成長させるか、その方法について考えることは重要となっている。本プログラムの考え方や実施方法は、新規プロジェクトの土台になる可能性がある。

九女わくわくパーク当日の様子



年 度		令和 5（2023）年度
事業名		グルタミン酸濃度測定簡易キットを用いた食品中のグルタミン酸濃度の研究
九州女子大学	担当者	巴 美樹
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	味の素(株)
	責任者	
事業実施日・回数		2023 年 3 月～継続中
実施場所		九州女子大学
事業対象者 参加人数		測定数: 約 500 品目
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 うま味を活かした美味しい給食の提供を目指すことを目的とし、味の素株式会社の開発した簡便・迅速なグルタミン酸測定用キット(デジタルパックテスト)を用いて、地域の福祉施設および病院給食（一般職・腎臓食）のグルタミン酸量の測定を行った。常食と減塩食のグルタミン酸量によっての美味しさの違い、福祉施設の給食と病院給食のグルタミン酸量の違いについて検討し、さらにグルタミン酸量と塩分濃度の関連について現在解析中である。 2. 実績 ①2023 年 5 月～2023 年 8 月 福祉施設の給食のグルタミン酸濃度、塩分濃度の測定 ②2023 年 11 月 24 日 経過報告書の提出 3. 効果 福祉施設の給食 10 日間のグルタミン酸濃度、塩分濃度を測定し、福祉施設での実態を把握することができた。また、給食現場でデジタルパックテストを用い、グルタミン酸濃度を簡単に使用するためのスケール作成について検討を行った。今回測定した試料の攪拌時に必要な希釈倍率および測定時に必要な希釈倍率をまとめ、攪拌時に必要な希釈の範囲は 1 倍～2.5 倍、測定時に必要な希釈の範囲は 100 倍～1200 倍であった。また、測定不可の食品の特徴などが分かり、汎用性についての評価を行うことができた。
学生・参加者の声		実際に提供されている福祉施設のグルタミン酸濃度、塩分濃度を測ることができ、管理栄養士を目指す学生にとって貴重な経験となっている。
今後の改善内容 及び展開		2024 年度は引き続き病院の常食、腎臓食の測定を行い、福祉施設と病院給食の違いや常食と腎臓食の違いについて検討していく。

第2章 令和5年度の地域連携事業



年 度		令和 5（2023）年度
事業名		鯖および明太子を活用した製品開発事業
九州女子大学	担当者	山本 亜衣
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	えん・コミュニケーションズ
	責任者	品質管理本部 開発部 部長 藤田 尚孝
事業実施日・回数		2023 年 4 月～10 月
実施場所		九州女子大学 弘明館 B106
事業対象者 参加人数		事業対象者：えん・コミュニケーションズ 学生：8 名
経 費		なし（原料の提供のみ）
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 鯖および明太子を使用した製品の開発。食品ロスの削減（鯖の尾、明太子のガム子）、調理の簡素化、魚嫌いでも食べられる製品の制作を目的に開発を行った。 2. 実績 (株)えん・コミュニケーションズの限られた調理機器を考慮し 14 品目の製品開発を行ない、試食会を開催した。商品開発では食感・味・栄養価を充実させるために、臭み取りの方法や焼き時間、食材本来の香り、食感を生かす工夫を行った。 3. 効果 試食会は好評であり、前回よりもより商品化に近づけることができた。
学生・参加者の声		商品を製作するにあたり常温保存という条件で何を作るか、見た目や原価、食感などの要素を考慮した製品開発を行うことは容易ではないこと、商品化するためには大量生産可能な調理方法であること、消費者が手に取りたくくなるような見た目、またネーミングが大切であることなど、商品開発の難しさについて学ぶ貴重な機会となった。
今後の改善内容 及び展開		今後は、企業からのアドバイスや意見を参考に、大量生産可能な調理方法、購入意欲が沸く見た目、ネーミング等を考慮した商品開発を行ない、製品化につなげていきたい。

第2章 令和5年度の地域連携事業

鯖および明太子を活用した製品開発事業



【打ち合わせの様子】



【試食会の様子】



さばの骨ふりかけ



さばの尻尾が入った食べるラー油



さばの骨・ドライトマト入りクッキー



油淋鯖（ユーリンチンユー）



さばジャーキー



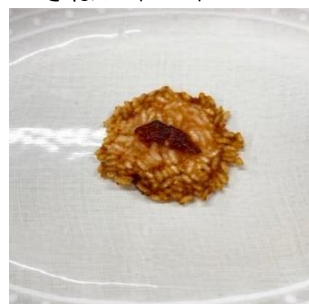
いわしせんべい



サバ味噌



たらこクッキー



明太せんべい



いわしのチップ



イワシバー



明太スティック・明太トマト

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		株式会社セルブとの味噌漬け製品の開発
九州女子大学	担当者	巴 美樹
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	株式会社セルブ
	責任者	社長 小嶋 寿見子
事業実施日・回数		令和 5 年 8 月～9 月
実施場所		九州女子大学 弘明館 B106
事業対象者 参加人数		事業対象者：株式会社セルブ 学生：4 名
経 費		なし（味噌の提供のみ）
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 株式会社セルブは北九州を代表とする企業であり、事業の一つとして飲食業を営んでいる。2022 年度に九州女子大学と提携を結び、北九州のお土産となるような製品の開発を目指している。 セルブの味噌を用いて、福岡県産のタケノコや海産物、若松産のトマトなど、地域の特産品を使用した味噌漬け商品の開発を行うことを目的とした。 2. 実績 試作した味噌漬け製品は九州女子大学家政学部栄養学科 24 名（20～22 歳）を対象に官能評価を行った。その結果、タコの官能評価は白味噌より赤味噌を使用した方が評価が高かった。 肉類において味噌には三温糖よりザラメの方が評価が高かった。 トマトおよびタケノコの味噌漬けは、他の試料と比較して官能評価での評価が低く、購買意欲も低かった。 3. 効果 官能評価結果より、グルタミン酸含量の多い赤味噌の方が好まれたことから、うま味の強さが味噌漬け商品の味の評価に影響を与えている可能性が示された。また、食材ごとに適する砂糖の種類が異なることが推察された。植物性食材よりも動物性食材の方が味噌漬け商品として好まれる傾向にあることが示された。
学生・参加者の声		本研究を通し、消費者に好まれる商品を開発する難しさについて学ぶことができた。
今後の改善内容 及び展開		今後の課題として、味噌だけでなく、それぞれの食材の味噌漬けのグルタミン酸含量と、塩分含量を測ることで、官能評価では分からなかった部分を数値化して検討を行って行きたい。

第2章 令和5年度の地域連携事業

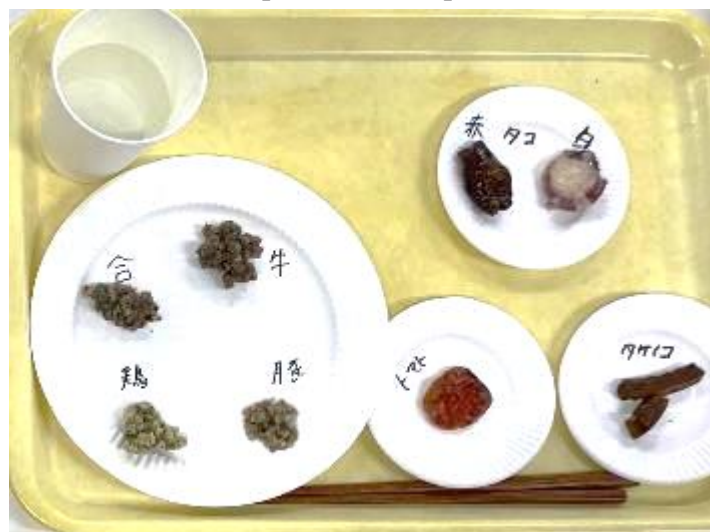
味噌漬け製品の開発



【味噌作成の様子】



【官能評価の様子】



【官能評価を行った試作した味噌漬け製品】

年 度		令和 5（2023）年度
事業名		ギラヴァンツ北九州との取り組み
九州女子大学	担当者	巴 美樹
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	ギラヴァンツ北九州
	責任者	
事業実施日・回数		6 回
実施場所		ジビエカレーキックオフイベント、サッカークリニック: 九州女子大学 ジビエカレー販売: ミクニワールドスタジアム 選手への栄養講習会: 本城陸上競技場、ギラヴァンツ北九州クラブハウス（新門司マリーナ）
事業対象者 参加人数		サッカークリニック: 親子 30～50 名、栄養指導: 選手 40 名
経 費		
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 令和 5（2023）年度は地域連携を豊前市へ広げ、ギラヴァンツ北九州、豊前市、九州女子大学が共同でレトルトカレー「ジビエカレー」を開発した。「ジビエカレー」のキックオフイベントや例年行っている小学生、中学生を対象としたサッカークリニックも引き続き 2 回開催した。ギラヴァンツ選手を対象とした栄養指導、体力測定も継続的に行っている。 2. 実績 ① 2023 年 7 月 1 2 日(水) 豊前市・九州女子大学・ギラヴァンツ北九州との共同プロジェクト「SDGs ジビエカレー開発キックオフイベント」 ② 2023 年 7 月 16 日(日) ミクニワールドスタジアムでのピエカレー初販売 ③ 2023 年 7 月 27 日(木)、2024 年 3 月 14 日 選手への栄養講習会 ④ 2023 年 8 月 27 日(日) 第 1 回サッカークリニック(小学生の部) 2023 年 11 月 12 日(日) 第 2 回サッカークリニック(小学生の部) 3. 効果 ジビエカレーのキックオフイベントでは、NHK 北九州や新聞社などメディアに取り上げられ、大学の広報活動につながった。 ギラヴァンツ北九州選手への栄養指導は、今年は栄養指導前後の評価を行うことができ、選手の食事内容の改善がみられた。また、朝食の摂り方など問題点も明らかとなり、次年度の栄養指導に活かしていきたい。学生への実践的な教育の機会ともなっている。
学生・参加者の声		学生でありながら、ジビエカレーという商品開発に携われたこと、プロの選手とコミュニケーションをとりながら栄養指導を行うなど実践的に学ぶことができたことが非常に勉強になった。
今後の改善内容 及び展開		選手への栄養指導においては、現在一人の選手に対して一人の学生をつけ、より詳細な個別指導ができるように改善している。

第2章 令和5年度の地域連携事業

SDGs ジビエカレー開発キックオフイベント



選手への栄養講習会



サッカークリニック



年 度		令和 5（2023）年度
事業名		地島産椿油を利用したレシピ開発による地域連携事業
九州女子大学	担当者	新富 瑞生
	所 属	家政学部 栄養学科
連携機関	機関名	宗像市役所、地島小学校
	責任者	宗像市コミュニティ協働推進課 政策係 主任主事 西山 久瑠美
事業実施日・回数		商品開発：2023 年 5 月～11 月 むなかた子ども大学：2023 年 11 月 11 日
実施場所		商品開発：九州女子大学 弘明館 B106,107、試食会：地島小学校
事業対象者 参加人数		事業対象者：地島の地域住民 学生：10 名
経 費		地域連携推進センター／宗像市
事業目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 宗像市および地島小学校との地域活性化を目的とした九州女子大学の地域連携プロジェクトの一環として、地島の椿油や天然わかめ、宗像特産品である大豆、野菜などを利用したレシピを考案し、商品開発を行うことで地島の特産品の認知度や九州女子大学の知名度の寄与につなげることを目的とした。 2. 実績 地島特産のつばき油、わかめを用いた製品を 7 品開発し、地島小学校で開催される“むなかた子ども大学”において提供した。多くの人に好まれ、簡単に作れる美味しいレシピを開発するために、調理工程が簡便であることも考慮し、何度も試作を繰り返しながら開発に取り組んだ。 3. 効果 特産品をアピールする商品開発の取り組みで児童と共に活動を行ったことは、これからの地島の活性化や PR 活動に結び付き、九州女子大学の知名度の寄与にもつながった。
学生・参加者の声		宗像市地島の椿油や同市特産品を用いて、誰にでも好まれる美味しいレシピを考案し、商品開発を行うには、食品特製を知り、単価を考え、製品化するために難しい行程を避けた流通への行程を考慮することが重要であることを学んだ。また、考案したレシピを児童が真剣に学びながら調理し、美味しく口に食べている姿をみてやりがいを感じた。
今後の改善内容 及び展開		今後は、宗像市とより積極的に連携を図り、地島だけでなく、宗像市全体を盛り上げるために、地物と特産を生かした製品開発を行ない、宗像市の PR に繋げていきたい。

第2章 令和5年度の地域連携事業



【むなかた子ども大学での様子】



【試食会で提供したつばき油、わかめを使用したメニュー】

X. インターンシップ推進事業

本学のインターンシップについては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が提言している「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に則り、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に積極的に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

令和5年度は、学生に対して新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を促したうえで、学生を派遣した。また、上述の「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に関して、今般のインターンシップを取り巻く状況の変化等を踏まえ取りまとめられた留意点を考慮し、より教育効果の高いインターンシップの推進・普及を実施するため、令和3年度より大学2年生から正規の教育課程にインターンシップ科目を配置し、学生を派遣している。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ
北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉学意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
北九州市インターンシップ
職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。

地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

文系インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会
短期仕事理解型インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会
インターンシップ

北九州市インターンシップ

インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

第2章 令和5年度の地域連携事業

2. インターンシップ 参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会で必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ

5月

参加学生の募集開始
チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明 必要書類の提出

6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

学内事前研修
インターンシップの意義やマナーについて学内で研修
学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

8~9月

インターンシップ

9月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



(2) 春季インターンシップ

11月

参加学生の募集開始
チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明 必要書類の提出

12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

学内事前研修
インターンシップの意義やマナーについて学内で研修
学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

2~3月

インターンシップ

3月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ

① 本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	(株)グローバルマーケット	8/24～8/26	3日	1
	(株)明治安田生命保険相互会社	9/4～9/8	5日	1
	計(延べ人数)			2
春季	(株)晴天	2/28～2/29	2日	1
	(株)ナフコ	2/10	1日	1
	福岡ひびき信用金庫	2/20～2/21	2日	1
	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部	3/15	1日	1
	計(延べ人数)			4
合計(延べ人数)			6	

学生のコメント	・インターンシップに参加して、グループワークで率先して意見を言えた点や、質問をしっかりとできたことに関しては、普段授業で意識して行っていることが活かたのではないかと感じました。 ・自分の課題はグループワークの際率先して役割を持つことだと感じた。 ・グループワークが毎日組まれており、自分で考え、それを他者と共有し一つの意見としてまとめる機会がたくさんあった点が良かった。 ・実際に働かれている場面の見学をしたいと思った。 ・ロールプレイを見学し、営業ではお客様の隠れたニーズまで意識してしっかりと見極めることが大切であると学ぶことができた。 ・自己分析では働く期間や得られる価値、人生への影響などを意識することが大切であると学ぶことができた。
受け入れ先のコメント	・わからないところを把握し、担当に質問するなど、積極的に質問していただきありがとうございました。 ・初めての業界用語、初めて体験する資料や間取りづくりで大変だった部分もあるかと思いますが、3日間、楽しそうに取り組んでいらっしゃる姿が印象的でした。 ・説明を聞く姿勢がとても良い。グループディスカッションでも積極的に発言をする等、積極性がみられた。 ・慣れない環境の中、聞いたことや経験したことを頭で整理し、疑問に思ったことを具体的に質問することができていた。 ・職員の指示を正しく理解し、守ることができていた。

第2章 令和5年度の地域連携事業

(2) (一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ

① 本学の実施状況

受け入れ先		日程	日数	人数
夏季	くまタビインターンシップ	9/4～9/8	5日	1
	(株)マミースマイル	8/16～8/27	12日	1
	(株)DL	9/4～9/8	5日	1
合計				3

学生のコメント	・私は大学で人見知りをしてしまい自ら人に話しかけることが少なかったのですが、インターンシップでは意識してグループの方と話をするようにしたので、今後も自ら話しかけられるよう努力したいです。
受け入れ先のコメント	・分からないことを、分からないです！難しいです！と意思表示してくれるのはとても素晴らしいことで、教える側としてもとても助かりました。 ・今後も今回と同じように、自分のペースで少しずつでも苦手を克服したり、できることを増やしていってもらえたら嬉しいです。

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

① 本学の実施状況

※令和5年度の本学学生の参加者なし

(5) 北九州市インターンシップ

① 本学の実施状況

受け入れ先		日程	日数	人数
北九州市芸術文化振興財団		8月中旬～下旬	4日	1
合計				1

学生のコメント	・「働く」ということのイメージが明確になり、市役所の職場の雰囲気も知ることができました。就職先を考えるにあたって視野が広がりました。 ・職場ごとの雰囲気と、どのような点を大切にして働いているのかを知り、北九州市で働くということがイメージできました。
---------	---

XI. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、「グリーンティーチャー」等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

【ボランティア事業の種類】

九州女子大学	グリーンティーチャー	取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名している。グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通して、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。
	病院・施設ボランティア	病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。
	図書館ボランティア	図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。
九州女子短期大学	幼稚園・保育所・施設ボランティア	幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。
	キャラバン隊	九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

XII. その他の地域連携諸事業

1. 北九州市民カレッジにおける公開講座

北九州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。令和5年度は、各大学等の特徴を活かした高度で専門的な学習分野「高等教育機関提携 コース」において、前期・後期それぞれ全5回を2講座、本学や折尾まちづくり記念館にて開講した。また「大学の魅力! 地域に発信!!」をテーマとした全5回の大学連携リレー講座では、家政学部より佐久間治教授、人間科学部より押岡大覚教授を派遣した。

コース名	高等教育機関提携コース(前期)
講座名	若く美しく健康に老いる食生活
内容	①若く美しく老いる食生活 ②自分の骨密度を測定 ③筋肉量を測定 ④血圧を下げるための食事 ⑤運動と食事
担当教員	①家政学部栄養学科 巴美樹教授 ②家政学部栄養学科 塩田由紀教授 ③家政学部栄養学科 巴美樹教授 ④家政学部栄養学科 山本亜衣准教授 ⑤家政学部栄養学科 巴美樹教授
実施場所	九州女子大学 弘明館



第2章 令和5年度の地域連携事業

コース名	高等教育機関提携コース(前期)	
講座名	文化文芸の力と魅力	
内容	①俳句の可能性と魅力 ②漢字のはなし ③民衆文化とフォークソング ④松本清張「点と線」を読む ⑤江戸の怪談	
担当教員	①人間科学部心理・文化学科 ②人間科学部心理・文化学科 ③人間科学部児童・幼児教育学科 ④人間科学部心理・文化学科 ⑤非常勤講師	江口恵子教授 古木誠彦准教授 中島久代教授 古浦修子教授 樫澤葉子先生
実施場所	九州女子大学 弘明館	



コース名	高等教育機関提携コース(後期)	
講座名	地域に開かれた大学図書館	
内容	①大学図書館とは ②目的別資料の探し方 ③情報を活用する際に気を付けること ④情報検索、活用の際に気をつけること ⑤もしあなたが図書館司書ならば・・・	
担当教員	人間科学部 心理・文化学科 矢崎美香准教授	
実施場所	九州女子大学・九州女子短期大学 付属図書館	



コース名	高等教育機関提携コース(後期)	
講座名	心理学や脳科学から情報社会の未来を考えよう	
内容	①コンピュータやインターネットの歴史 ②コンピュータと脳 ③AIロボットと人間① ④AIロボットと人間② ⑤情報化社会とDX	
担当教員	人間科学部 心理・文化学科 関洋輔教授	
実施場所	北九州市折尾まちづくり記念館	



受講者の声

- 【前期】
- ・あっという間の5回でした。こういう機会(市民カレッジ)があることを知らず今まで学びをしていなかったなと痛感する次第です。
 - ・具体的に自分の骨密度を知り実情が掴めた。
- 【後期】
- ・図書館によく行きます。検索の方法など実際に役立つことをたくさん教えていただきました。
 - ・AIや脳など初歩から解説していただき、わかりやすかったです。

コース名	大学連携リレー講座	大学連携リレー講座
講座名	北九州の都市変遷のストーリーと 地域資源としての近現代建築の風景	災害時に活かす心理学 —心理的応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド)—
担当教員	家政学部生活デザイン学科 佐久間治特任教授	人間科学部心理・文化学科 押岡大覚教授
実施場所	北九州市立生涯学習総合センター	北九州市立生涯学習総合センター

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和4年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。	・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。	・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。	・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。	・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。

【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校				19
	栄養学科	小学校				1
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園				61
		小学校				9
	人間発達学科 人間基礎学専攻	特別支援学校				36
		中学校 高等学校				21
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所		46	37	0
		児童養護施設等				58
臨地実習	栄養学科	福祉施設・保健所				0
		小学校				0
		病院				1
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設			0	0
	人間発達学科 人間発達学専攻			0	0	0
	人間発達学科 人間基礎学専攻				0	

【九州女子短期大学】

(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園		63
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		60
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		33
保育実習	子ども健康学科	保育所	58	70
		児童養護施設等	58	32
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設	25	59

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会			地域教育実践研究センター外部評価委員会		
大島 まな	地域教育実践研究センター 所長 人間科学部人間発達学科 教授		大島 まな	学内委員 地域教育実践研究センター 所長	
岡部 憲宗	地域教育実践研究センター 副所長 事務局長		岡部 憲宗	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長	
濱寄 朋子	教務部長 家政学部栄養学科 教授		阿南 雅子	学外委員 芦屋町役場 企画政策課地方創生推進係 係長	
蒲原 路明	学生部長 人間科学部児童・幼児教育学科 教授		田中 尚哉	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 主事	
富山 禎信	家政学部生活デザイン学科 講師		實松 秀男	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長	
巴 美樹	家政学部栄養学科 教授		成重 純一	学外委員 北九州市立高須小学校 校長	
堺 正之	人間科学部児童・幼児教育学科 教授		大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 評議員	
押岡 大覚	人間科学部心理・文化学科 教授		安藤 進一	学外委員 協同組合折尾商連 理事長	
貞方 聖恵	子ども健康学科 講師		巴 美樹	学内委員 家政学部人間栄養学科 教授	
秋丸 風花	地域教育実践研究センター 主事補		堺 正之	学内委員 人間科学部児童・幼児教育学科 教授	
			貞方 聖恵	学内委員 子ども健康学科 講師	
			秋丸 風花	地域教育実践研究センター 主事補	

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等		外部との会議等	
4月				
5月			17日	北九州市との連携会議
6月	29日	第1回地域教育実践研究センター運営委員会	6日	芦屋町との連携会議
7月			7日	折尾二三会との連携会議
8月				
9月	28日	第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会		
10月	5日	第2回地域教育実践研究センター運営委員会	3日	水巻町との連携会議
11月	24日	第3回地域教育実践研究センター運営委員会		
12月				
1月				
2月				
3月	6日 25日	第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会 第4回地域教育実践研究センター運営委員会		

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和5年度は、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和5年9月28日に開催し、令和4年度の連携事業の実績報告、令和5年度の連携事業の進捗を共有・確認した。また、第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和6年3月6日に開催し、令和5年度の連携事業の実績報告、令和6年度の連携事業計画を共有・確認した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	昨年度はキャラバン隊の派遣は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが模擬保育の様子を収録したDVDの作成に取り掛かってもらい、完成を楽しみにしている。地域交流サロンおよび公民館講座は大変好評であるため、今年度もぜひお願いしたい。
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	キャラバン隊の活動から、高齢者向けの講座まで幅広い年齢層を対象とした事業に取り組んでもらい感謝している。キャラバン隊はコロナ禍で模擬保育などができない中、DVD教材を作成するという工夫が良かった。
水巻町	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	コロナ禍以降防災についての出前講座の要望も減ってきているため現在調整中であるが、昨年度に引き続き出前講座に九州女子大学の学生に同行してもらい、協力をお願いしたい。
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	地域からの要望は少なかったが、今年度も防災教室の出前講座をできて良かった。学生たちの発表がよく、講座への参加者からの反応も良かったので来年度も引き続き実施したい。
北九州商工会議所	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	昨年度は九州女子大学から延べ19名の学生がインターンシップに参加していた。合同説明会やインターンシップの参加者の減少が問題となっているため、インターンシッププログラムの見直しなどを行いたい。学生が参加しやすくなる取り組みなどあれば教えてほしい。
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	今年のインターンシップは春季の参加者が少なく、夏季は多かった。1～2年生から動いている学生と、3～4年にならないと動かない学生の二極化が顕著である。市内企業をもっと知ってもらうためのバスツアーも実施しているので学生に参加してほしい。
北九州市立小学校	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	九州女子大学出身の教員が現在も頑張っている。若手教員の離職率が問題だが、教育実習やボランティアの経験から教育現場で勤めることをあきらめたと聞くこともある。日々の業務の中で教員を目指す学生に夢を持たせるような仕事をせねばならないと実感した。
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	前年度の卒業生は5年生のクラスの担任をしており、クラス運営を頑張っている。大事に育てていきたいと思っている。働き方の改善として、人材の確保と育成に力を入れたり、二学期制の導入や授業時間を減らすことで担任の負担を減らしたりしている。二学期制にすることで通知表を作成する頻度が減り、新卒の先生の評価力の低下が問題視されていたが研修を行うことでカバーしている。このような変化を学生にも知ってほしい。素直な学生を輩出してくれることに感謝している。
北九州市 小倉社会事業協会	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	慢性的な保育士不足に悩まされている。教育現場に夢を持たせるのは大切なことであると感じている。また最近では「責任を持ちたくない、楽だから」という理由で正規職員ではなく嘱託職員を希望する若者が多い。そのようなイメージがなくなるよう現場の働き方を改善していく
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	九州女子大の卒業生が若手の中堅も頑張っている。しかし保育士の人材不足で困っている。最近では保育園の状況が変わってきており、小規模の園も増えてきた。小規模の園を希望する学生が多い印象がある。園児との遊び方がわからないという新卒が多いので、キャラバン隊が作成したDVD教材はとても勉強になる内容である。今後も引き続き連携を取っていきたい。
協同組合折尾商連	第1回委員会 (R5. 9. 28開催)	折尾の街は高架下の商業施設をはじめ、現在進化を続けている。今週末には堀川一斉清掃も行われ、12月からは折尾イルミネーションも点灯する。学生にも地域活性化に関わってもらいながらともに成長していきたい。
	第2回委員会 (R6. 3. 6開催)	わくわくパークやおりちょこランドの他に、折尾祭り実行委員2月からスタートした。学祭実行委員の学生たちがとても頑張っている。引き続き連携を取りながら進めていきたい。折尾駅の広場や高架下でイルミネーション事業など実施した。今後いかに継続していくかが課題である。タウンマネジメントの本格化が必要となっており、折尾の街に対する関心が高い今、今後も学生の協力を期待する。

Ⅳ. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社九州支社	本学と味の 株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日
不二製油株式会社	本学と不二製油株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年4月1日
株式会社えん・コミュニケーションズ	本学と株式会社えん・コミュニケーションズの包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
折尾二三会	本学と折尾二三会の包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
学校法人能美学園星琳高等学校	本学と学校法人能美学園星琳高等学校の高大連携協定	令和5年3月14日
中間市	本学と中間市の包括的連携に関する協定	令和5年7月21日
福岡県立西田川高等学校	連携教育に関する協定	令和6年1月19日

Ⅴ. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	子ども健康学科	菊地由紀子	子育て応援サロン	隔月1回、第2土曜日	社会福祉法人 粕屋町社会福祉協議会
2	家政学部 人間生活学科	佐久間 治	北九州市立年長者研修大学校穴戸学舎研修	R5. 7. 19、R5. 8. 2、 R5. 8. 4、R5. 8. 23、 R6. 2. 9	九州市立年長者研修大学校穴生校舎
3	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	北九州市立年長者研修大学校穴戸学舎研修	R5. 5. 11	九州市立年長者研修大学校穴生校舎
4	人間科学部 人間発達学科	松本 真理子	障害児保育のキャリアアップ研修	R5. 8. 9	北九州市保育士会
5	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	キャリア形成プログラム	R5. 5. 1～R6. 3. 31	北九州市立男女共同参画センター
6	子ども健康学科	宮嶋 晴子	家庭教育支援担当者等研修	R5. 5. 24	群馬県教育委員会
7	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	大阪府保育士等キャリアアップ研修	R5. 8. 26	一般財団法人保健福祉振興財団
8	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	大阪府保育士等キャリアアップ研修	R5.10. 21	一般財団法人保健福祉振興財団
9	人間科学部 人間発達学科	木村 栞太	全事研セミナー	R5. 5. 13	全公立小中学校事務職員研究会
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	社会教育主事講習 [A]	R5. 7. 11～8. 30	国立教育政策研究所
11	家政学部 栄養学科	三浦 公志郎	管理栄養士のための基礎医学講座	R5. 7. 15	株式会社日本医療企画九州支社
12	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	小倉北区自治総連合会町内会長研修会	R5. 6. 25	小倉北区自治総連合会

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
13	人間科学部 人間発達学科	山口 勇弥	福岡県性暴力対策アドバイザー派遣事業	R5. 6. 5	福岡県
14	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	社会教育主事講習	R5. 7. 21～8. 12	国立大学法人 九州大学
15	子ども健康学科	宮嶋 晴子	社会教育主事講習	R5. 7. 21～8. 12	国立大学法人 九州大学
16	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	長崎県放課後児童支援員認定資格研修	R5. 10. 22、 R5. 11. 23	長崎県学童保育 連絡協議会
17	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	八幡西区自治総連合会研修会	R5. 9. 1	八幡西区 自治総連合会
18	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	地域における女性リーダー育成セミナー	R5. 9. 27、 R5. 12. 13	北九州市生涯学習 総合センター
19	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	那珂川市社会教育委員第一回研修会	R5. 8. 9	那珂川市教育委員会
20	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	福岡市保育士等キャリアアップ研修	R6. 9. 16、 R6. 9. 21	一般社団法人 保健福祉振興財団
21	子ども健康学科	松本 禎明	福岡県保育士等キャリアアップ研修	R5. 10. 8	一般社団法人 保健福祉振興財団
22	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	目録システム書誌作成研修	R5. 9. 14	国立情報研究所
23	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	第一回幼児教育研修会	R5. 9. 13	宗像市
24	人間科学部 人間発達学科	松本 真理子	キャリアアップ研修会	R6. 8. 9	北九州市保育士会
25	人間科学部 人間発達学科	友納 艶花	子育て支援員養成研修	R5. 2. 16	社会福祉法人 北九州市福祉事業団
26	人間科学部 人間発達学科	松本 真理子	小倉北ふれあい保育所研修会	R5. 8. 25	社会福祉法人正善寺 福祉会
27	子ども健康学科	猪野 善弘	子育てネットワーク会議	R5. 9. 8	大阪市坂ノ氏公民館
28	人間科学部 人間発達学科	関 洋輔	中京大学主催合同IR研修会	R5. 9. 1	学校法人中京学院
29	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	大牟田市授業研究会	R5. 9. 29	大牟田市教育委員会
30	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	乳児保育研修	R5. 11. 1、 R5. 11. 20	社会福祉法人 山口県福祉協議会
31	人間科学部 人間発達学科	本田 辰之	体験型講座「C' mon塾」講師	R5. 10. 5	飯塚教育文化振興 事業団
32	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	体験型講座「C' mon塾」講師	R5. 11. 2	飯塚教育文化振興 事業団

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
33	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	体験型講座「コモン・クラシック講座」	R6. 12. 17	飯塚教育文化振興 事業団
34	子ども健康学科	住田 実	「養護概説」特別講義	R6. 11. 20	九州看護福祉大学
35	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	八女地区高等学校PTA連合会研修会	R5. 10. 28	八女地区高等学校 PTA連合会
36	子ども健康学科	松山 みどり	保育の安全と健康について	R5. 11. 10	社会福祉法人穂積会 くぼこども園
37	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	目録システム書誌作成研修	R5. 11. 17	国立情報学研究所
38	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	社会教育主事講習 [B]	出張なし	国立教育政策研究所
39	人間科学部 人間発達学科	谷口 幹也	GENERATOR×PLAYFUL LEARNING × EDUCATION研究会	R5. 11. 25、 R5. 11. 26	国立大学法人 鳴門教育大学
40	子ども健康学科	宮嶋 晴子	子どもの人権について	R6. 2. 2	飯塚市
41	家政学部 栄養学科	巴 美樹	日本医師会認定産業医 生涯研修単位認定講習会	R5. 9. 29	一般社団法人 西日本産業衛生会
42	家政学部 栄養学科	巴 美樹	東田塾セミナー	R5. 10. 10、 R5. 10. 24、 R5. 10. 31	一般社団法人 西日本産業衛生会
43	人間科学部 人間発達学科	山口 勇弥	矯正施設におけるトラウマインフォームド ケア	R6. 2. 6	小倉少年鑑別支所
44	家政学部 栄養学科	巴 美樹	宮崎県栄養士会生涯学習研修会	R6. 3. 17	公益社団法人 宮崎県栄養士会
45	家政学部 栄養学科	巴 美樹	若い世代を対象としたスポーツ栄養学	R6. 3. 20	北九州市 折尾まちづくり記念館
46	人間科学部 人間発達学科	古木 誠彦	漢字の謎解き	R6. 3. 20	北九州市 折尾まちづくり記念館
47	子ども健康学科	宮嶋 晴子	西区暮らしの中の人権講座	R6. 1. 14	福岡市立西 市民センター
48	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	冬のスキー指導	R5. 3. 26～3. 30	NP0法人山梨幼児 野外教育研究会

VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	人間科学部 人間発達学科	友納 艶花	北九州市児童福祉施設等第三者委員会 専門委員	R4. 4. 1～R6. 3. 31	北九州市
2	子ども健康学科	黒田 耕司	水巻町子ども・子育て会議委員	R4. 4. 1～R6. 3. 31	水巻町
3	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第11期北九州市男女共同参画審議会 委員	R4. 4. 1～R6. 3. 31	北九州市
4	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会 委員	R4. 9. 1～R7. 8. 31	北九州市

VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
5	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	福岡市総合図書館運営審議会委員	R4.7.9～R6.7.8	福岡市
6	人間科学部 人間発達学科	佐方 はるみ	北九州市迷惑防止推進教委議会委員	R4.7.1～R6.3.31	北九州市
7	家政学部 栄養学科	白石 美恵	北九州市学校給食審議会委員	R4.7.1～R6.6.30	北九州市
8	家政学部 栄養学科	塩田 由紀	北九州市学校給食調理等業務 委託業者選考委員会	R4.10.11～選定終了	北九州市
9	人間科学部 人間発達学科	松本 真理子	北九州市子ども・子育て会議委員	R6.1～R7.12	北九州市
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市SDGs協議会委員	R4.11.1～R6.10.31	北九州市
11	家政学部 栄養学科	巴 美樹	芦屋町ブランド金賞選定審査委員会	R4.4.1～R6.3.31	芦屋町
12	家政学部 人間生活学科	田中 由美子	北九州市消費生活審議会委員	R5.4.1～R7.3.31	北九州市
13	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市健康づくり懇話会構成員	R5.3.～R6.3	北九州市
14	家政学部 人間生活学科	佐久間 治	北九州市景観審議会構成員	R5.4.1～R7.3.31	北九州市
15	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市口腔保健推進会議構成員	R5.6.30～R8.3.31	北九州市
16	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	目録システム書誌作成研修 企画ワーキンググループ	R5.4.3～R6.3.29	国立情報研究所長
17	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R5.7.1～R7.6.30	北九州市
18	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	福岡市総合図書館運営協議会委員	R5.9.8～R7.9.7	福岡市
19	人間科学部 人間発達学科	蒲原 路明	北九州市教員育成協議会委員	R5.6.30～R6.3.31	北九州市
20	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	北九州市子ども読書活動推進会議委員	R5.8.1～R7.3.31	北九州市
21	人間科学部 人間発達学科	松本 真理子	北九州市新ビジョン検討会議構成員	R5.7.1～R6.3.31	北九州市
22	人間科学部 人間発達学科	古浦 修子	北九州市民文化賞選考検討会委員	就任日～R7.3.31	北九州市
23	家政学部 人間生活学科	田中 由美子	広島県消費者生活審議会委員	R5.10.1～R7.9.30	広島県
24	人間科学部 人間発達学科	堺 正之	豊かな心育成推進会議委員	就任日～R6.3.31	福岡県
25	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	北九州市文化財保護審議会委員	R5.11.1～R7.10.30	北九州市
26	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	家庭教育の総合的推進に関する調査研究 技術審査委員会委員	R5.9.29～R6.2.29	文部科学省

